

めざす児童生徒像

つよく やさしく かしい子

- つよさ 真の強さをもった子に
- やさしさ すべての人にやさしい子に
- かしさ みんなでとことん考える子に

※児童生徒結果-教員結果-保護者結果

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果 (%)			※差	達成状況の分析	改善策
				教員	児童生徒	保護者			
学校重点項目 (「学び」と「育ち」が あたたかい学校づくりあり)	生徒指導	①②の項目について、肯定的回答をしている教員の割合が平均90%以上 ③④の項目について、肯定的回答をしている児童の割合が平均90%以上	① 生徒指導の4つの視点を生かした授業づくり、関心・安全な居場所づくりに努めている。	100				・①②の項目について、どちらも100%を達成した。SSWを招聘した研修で各先生方の大事にしていることを共有できたこともよかった。 ・③の項目においては90%を達成したが④の項目については、90%を達成できなかった。教師の意識は高いため、肯定的な言葉かけを心がけていく。	・今後も継続して学習規律の徹底と、教師と児童、児童同士を結び付ける声かけや取り組みを共有していく。 ・日々の学習、行事の後の振り返りにおいて、価値づけをしていく。 ・教師からの温かい声かけと、児童の丁寧な言葉遣いの徹底をしていく。 ・生活目標の振り返りを全学級で行えるよう、高学年から良い見本を発信していく。
			② 児童の自己有用感を高め、共感的人間関係を育むように努めている。	100					
			③ 児童が「自分にはよいところ、成長したところがある」と実感している。	93.8	90.4				
			④ 相手の気持ちを考えた言動をしている。	93.8	87.2				
			集計						
重点項目 石川県共通 業務改善 働き方や 業務改善意識の向上	業務改善	①②の項目について、肯定的回答をしている職員の割合が平均90%以上	① 80時間越えゼロに向け、時間外勤務の削減に取り組んでいる。	81.3			・4月～6月までの時間外勤務時間の時間は平均45.2時間であった。県が示している上限45時間を超えている。担当業務等により、時間外勤務時間数の偏りがある。 ・教職員のアンケートの結果は、目標の90%には達していないが、昨年度の同じ時期の数値と比べると、教職員の意識がわずかではあるが、上向きになっている。	・今年度から日課を見直し、放課後に教材研究等の時間を取るようにした。今後は、会議では時間を決めて行う、あらかじめ資料を見ておく等、放課後の時間を有効に活用できるよう工夫する。 ・時間外勤務時間の偏りについては、業務の役割分担を見直し、平準化を図るようにする。	
			② 学校組織の中で自分の役割が明確であり、創意工夫しながら取り組むことができている。	100					
			③ 定時退校日の意義を理解し、業務改善のために実践していることがある。	81.3					
			集計						
			集計						

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果 (%)			※差	達成状況の分析	改善策
				教員	児童生徒	保護者			
小松市共通重点項目	学校研究	①②の平均が 中間・・・85%以上 年度末・・・90%以上	① 研究主題に迫る目指す授業スタイルを共有し、単元(授業)構想シートなどの具体的な取組を共通実践している。	87.5			①②の項目について、平均90.6%となり、目標の85%を達成した。5月に提案授業、6月に研究授業を2つ行ったことで、研究の内容や目指す授業スタイルの共通理解、共通実践につなげることができた。	夏季休業中に2学期行われる研究授業について全員で教材研究することで、さらに共通理解を深め、共通実践につなげたい。	
			② 授業研究では、教職員一人一人が子供の姿を語ったり、改善案を示したりするなど主体的に取り組んでいる。	93.8					
			集計						
			集計						
			集計						
	指導力の向上	「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善	①と④の割合が、 中間・・・80% 年度末・・・85%	① 児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。	81.3	81.7		・①の項目について、教員81.3%となり、児童81.7%で目標の80%に達し目標指数を上回ることができた。年度当初に全校でモデル授業を見ることで、授業スタイルの共通理解や共通実践、児童の授業に望む意欲づけができたと考えられる。 ・②と③の項目について、教員・児童共に80%を上回っているが、どちらの項目も学年別にみると低学年が②は80%③は76%と低い割合となった。 ・④の項目では、教員側の割合が低い結果となった。話し合う活動の中で、共通点や相違点を考えながら聞くことや、相手の考えを受け止めて自分の考えを伝える部分で指導が不十分だと捉えている。 ・⑤の項目では、振り返りは行っているが、児童が振り返る活動の中で学びの変容や学びの達成感を得られていないと感じている教員が多くなることが分かった。振り返る時間が十分に取れなかったり、振り返りの内容が十分でなかったりしたと捉えている。 ・⑥の項目では教員・児童共に肯定的な回答の割合が高くなっている。教員が様々な教科で積極的にICT機器を使用し、児童も抵抗なく使用していることが考えられる。引き続き様々な場面で効果的な使用法を考えていきたい。	・②と③の項目について、考えの発表や話し合いのよい例を上学年から学ぶ機会が少なかったため、イメージが持てなかったことも要因と考えられる。2学期以降、児童同士の授業交流を実施し、よいイメージを持てるようにしていきたい。 ・⑤の項目では、タイムマネジメントを意識した授業を呼びかけ、振り返りを確実にし、短時間でも的を絞って振り返られるようにしていきたい。振り返りを書くことに意識がいき、振り返る目的への意識が低くなっているため、児童には振り返りをするこのよさを伝えるなど書く目的を再確認する場を設ける。また、現在使用している振り返りの視点を見直し、よい振り返りを提示して振り返りの充実を目指したい。
				② 児童生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。	81.3	88			
				③ 児童生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。	87.5	82.1			
				④ 児童生徒は、話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え(自分と同じところや違うところ)を受け止めて自分の考えを伝えている。	68.8	88.2			
				⑤ 児童生徒は、振り返る活動の中で、授業の目標に沿って自分の学びの変容を実感したり、学びに対する達成感を得られたりしている。	62.5	86.2			
学力の向上	カリキュラム・マネジメント	①②③の平均が90%以上	① 指導計画の作成に当たっては、学校の教育目標の実現に向け、各教科等の教育内容を教科横断的な視点で組み立てている。	100%			・教職員アンケートでは、全ての項目において高い値となった。年度初めの春休み期間中に学力向上全体会を開き、昨年度の反省をもとにした今年度の取組を全職員で共通理解してから児童の指導に当たったことが効果的だった。 ・学力調査の結果を元に更なる改善を目指した共通実践を全職員での話し合いで決定したことで、職員が目的意識をもって実践に取り組むことができた。 ・中学校と連携した取り組みについても、取組の目的を職員で共有することを心がけた。	・2学期以降も、取組の目的を適宜確認しながら継続していく。 ・夏季休業中に1学期の実践をもとに、国語科と算数科を中心にカリキュラムマップの修正を行い、より一層使いやすいマップにブラッシュアップしていく。	
			② 児童生徒や学校、地域の実態を捉えて教育課程を編成し、実施し、評価して改善の一連のPDCAサイクルを確立している。	93.8%					
			③ 全職員が学力向上の取組の目的や意義を理解し、課題の解決を期待できると納得して共通実践に取り組んでいる。	100%					
			④ 校区の小・中学校間で学力について情報交換し、課題について共有している。(小中連携)	100%					
			集計						
家庭学習	①②の項目について、職員の平均が90%以上	① 家庭学習の取組として、学習方法や課題の課し方等を校内で共通理解を図っている。 ② 学習用端末を活用した家庭学習に取り組めるよう課題を工夫している。	100%	77.0%		・職員アンケートの結果から、全ての職員が足並みをそろえて家庭学習に関する取組を実践したことが分かる。 ・家庭学習調べを学期に2回実施し、結果をもとに児童・保護者に対して家庭学習への意識の向上をねらった学校だよりを発行した。 ・児童アンケートの結果では肯定的回答がどちらの項目においても8割を下回っている。職員は指導をしているものの、職員が目指す家庭学習への取組が児童には身についていないという実態がうかがえる。	・より良い家庭学習習慣の定着を目指し、1学期の取組を継続していく。職員に対しても、取組の目的、家庭学習のチェックの仕方、宿題の量と質の確保等の具体的な方策について、適宜確認し、児童に確実に指導が行きわたるようにする。 ・児童の意識がさらに高まるように、職員室前の自学コーナーを充実させるとともに、始業式や集会等で担当職員から全校にむけて、家庭学習の意義や取り組み方について、一斉に指導をする。		
			集計						
			集計						